

平成22年度産業教育長期専門研修報告 認定農家における栽培技術の習得

岡山県立高松農業高等学校
佐野敏樹

平成22年度産業教育長期専門研修生として、認定農家（岡山市高松有機無農薬野菜生産組合みどり会：代表 大森英夫氏）において、標題の研修主題について、平成22年4月から平成23年3月までの1年間研修を行ったので、研修の概要を報告する。

1 研修の目的

本校では、平成15年より有機栽培の取り組みを始めた。基礎的な栽培は普通栽培と同じであるが、専門的な知識・技術を習得するため、研修を行った。

2 研修先の概要

岡山市北区高松での有機無農薬野菜生産は1981年に始まり、約30年間の歴史がある。現在は2つの組織（みどり会・ふるさと会）が生産活動を行っている。その中でも、みどり会（生産者10戸・栽培面積147.7a）の代表者でもある大森英夫氏の圃場にて研修を行った。

3 研修内容および研修の成果

研修中に関わった主な業務は以下のとおりで、主として栽培の技術研修を行った。

(1) 有機無農薬野菜栽培の実際



写真1 トマトの栽培状況

果菜類としてトマト、キュウリ、ナスなどの、葉菜類として小松菜、ほうれん草などの周年栽培を行った。

(2) 有機無農薬生産組合（みどり会）定例会への参加

定例会では、岡山農業普及指導センターの田坂嘉浩先生による野菜栽培の講習に参加した。



写真2 定例会の様子

(3) 岡山県下の有機無農薬農産物栽培および流通販売の実態調査

岡山県は、全国に先駆けて有機無農薬農業に取り組み、平成13年からは有機JAS規格を基本に、農薬・化学肥料を一切使わない「おかやま有機無農薬農産物」を独自に認定している。その結果、产地は県下各地へ広がり、着実に生産量も伸び、消費者からも好評を得ている。今後、さらに生産を拡大させるとともに、おかやま有機無農薬農産物の優秀性をPRしていくため、認定集団等の生産基盤の整備、入門研修の実施等により新規生産者を増やすとともに、有機無農薬農産物フェアを開催するなど、一層の生産振興や販売促進に取り組み、平成23年には生産量1600tの目標達成を目指している。

具体的な流通販売先は、天満屋岡山本店、まるだい円山店、コープ東川原、おかやまコープ大福店などで、取扱店は県内で131カ所に拡大している。近年は、料理提供店も5店舗存在している。出荷先の割合は、販売店(42%)、市場・米穀卸(27%)、生協(8%)、直売所(7%)、消費者への直売(3%)となっている。

表 岡山県における有機無農薬農産物の生産状況

年度	H13	H17	H20
認定集団(戸)	22	33	32
栽培面積(ha)	58	88	87
生産量(t)	1,048	1,372	1,509

(4) おかやま有機無農薬農産物認定制度

以下に、認定基準を紹介する。

- ア 農地は、2年(果樹では3年)以上、有機物による土作りを行い、他の農地と明確に区分する。
- イ 肥料はたい肥等の有機物、天然資材に限定し、化学肥料を使用しない。
- ウ 病害虫は、雨よけハウスや防虫ネットで防ぎ、農薬を使用しない。
- エ 生産者は、生産計画、作業、出荷を記録。有機JAS認定機関である(社)岡山県農業開発研究所が、書類と現地をチェック、さらには生産物の分析調査を行う。



写真3 集荷および出荷作業

4 今後の方針(有機無農薬栽培と起業家教育の融合を目指して)

本校の農業科学科では、平成18年から起業家教育の一環として、模擬会社を設立し、農産物の生

産から販売、商品開発などを行っている。平成21年からは、学校で栽培したミニトマトを100%使用したシロップづけやゼリーの商品化に成功し、地元の観光施設で土産物として販売するなど、付加価値の高いブランド品づくりを実践している。今後は、この加工品に使用するトマトの素材にこだわり、地域で有機無農薬栽培したトマトを活用することで、農家の所得向上を図り、地域農業の活性化に貢献するとともに、農業の6次産業化について生徒が体系的に実践学習できる機会にしていきたい。



写真4 トマトの試食



写真5 大森氏と本校生徒

5 謝辞

貴重な研修機会を与えてくださった岡山県教育委員会、所属校の校長先生をはじめ諸先生方に感謝いたします。また、研修中に懇切丁寧なご指導を頂いた大森英夫氏をはじめ、みどり会の方々に深く感謝いたします。